



世界歴史都市連盟

～その歩みと成果～

1 世界歴史都市連盟の始まり

当時の今川正彦京都市長は、世界文化自由都市宣言（1978年）を行った京都で、千年以上の歴史を有する世界の古都が集い、21世紀に向けて果たすべき役割を語り合う機会を持つことは大きな意義があるとの考えから、平安建都1200年記念事業の一つとして「世界歴史都市会議」を開催する構想を提唱（1985年）。

京都市の呼びかけにより、1987年に第1回世界歴史都市会議を開催。参加した26都市を会員として協議会を設立。

フィレンツェ（イタリア）での第2回会議、バルセロナ（スペイン）での第3回会議を経て、1994年4月に第4回会議が再び京都で開催されたことを契機に、従来の協議会を発展的に解消し、会議の継続開催を目的の1つとした「世界歴史都市連盟」を設立。以来、事務局は京都に置かれ、京都市長が会長を務めてきた。

1987年 第1回世界歴史都市会議開催
1994年 世界歴史都市連盟設立
1996年 世界歴史都市連盟規約の採択
1997年 会費制導入（\$100／年）
1998年 公募により1,028の作品の中からロゴマークを決定



第1回会議参加都市と京都宣言の石碑



第4回会議（国立京都国際会館）

<過去の世界歴史都市会議>



第12回会議 開会式(奈良)



第16回会議 閉会式(ブルサ)



第18回会議 総会(安東)



第19回会議 閉会式(リュブリャナ)

<加盟都市数・役員都市>

1987年（協議会）
26都市

1994年（発足時）
48都市

2024年12月末現在
135都市

役職	都市名	就任
会長	京都市	1994
副会長	西安市（中国） コンヤ市（トルコ）	1994 2010
理事	慶州市（韓国） リュブリャナ市（スロベニア） バート・イシュル市（オーストリア） シーラーズ（イラン） クラクフ市（ポーランド）	2005 2014 2018 2018 2022
監事	金沢市	2018

- 設立以来、4年ごとの役員改選で京都市長が会長に選ばれてきた。
- 地域バランス、活動への貢献度を重視した役員選出。
- 監事は近年、国内都市が務めている。

2 世界歴史都市連盟の意義と役割

(1) 課題解決に向けたノウハウの共有と世界平和への貢献

連盟は、歴史都市の更なる発展と世界平和の実現に向けた貢献をその設立趣旨とし、歴史遺産の「保存と開発」「継承と再生」など歴史都市が直面する課題の解決へ向け尽力してきた。歴史都市が英知を結集するプラットフォームの役割を有する。こうした国家の枠組みを超えた都市間の連携、知恵の共有により、世界の平和に貢献できることを目指す。

- 第12回会議では、ストラスブール市（フランス）から、優れた公共交通システムにおける都市計画の取組を学んだ。
- 第14回会議で京都市が「歴史都市のグリーン成長」について発表したことにより、会議後に揚州市（中国）及び奈良市から視察の申し出があった。
- 第18回会議で、安東市（韓国）のデジタル技術と伝統を融合した展示や公演を目にし、歴史都市の新たな転換期を実感する機会となった。

(2) 都市間交流の促進

連盟発足当初から加盟都市数は大幅に増加。連盟での交流をきっかけに、京都市はコンヤ市（トルコ）、フエ市（ベトナム）、イスタンブール市（トルコ）とパートナーシティ提携を締結し、台南市（台湾）とは交流推進協定を締結。また、京都市と会員都市との関係のみならず、会員都市同士の友好促進、協力関係の構築も活発に進んでいる。

(3) 地方創生と都市格の更なる向上

連盟設立当初の会員は、世界で観光地として名高い歴史都市が中心であったが、近年、世界において地方都市の活性化、観光客の分散化が重視されるようになり、地方の歴史都市の加盟が増加。連盟の活動を通して、京都市の理念や取組が広く世界に認知されると同時に、京都市が事務局や会長都市を務めることで、世界の歴史都市を牽引する役割を担い、国際都市としての存在感を高めることができる。

(4) 人材の育成

歴史都市の将来を担う若者の人材の育成のため、これまで世界各地で開催してきた世界歴史都市会議では、ユースフォーラムや青少年の絵画・動画コンテスト等を同時に開催。ユースフォーラムは、**歴史都市に住む若者が、新しい視点から歴史都市を捉え、将来に向けての問題提起やそれに対する提案、意見交換を行う場**に、また、コンテストは、作品の制作を通して**若い世代が地域の歴史・文化を海外に向け発信する機会**になっている。



第15回会議(バート・イシル)



第18回会議(安東)



第19回会議(リュブリャナ)

3 世界歴史都市連盟の主な活動

(1) 世界歴史都市会議の継続開催

原則として隔年開催。次回開催都市は、理事会において、立候補都市のプレゼンテーションの後、投票によって決定する。第20回（2026年）会議は姫路市（日本）、第21回（2027年）会議はイスファハン市（イラン）で開催予定。

※ 第21回会議は、第20回会議の翌年に開催するため、例外的に両会議の開催都市を2024年度理事会において選定した。



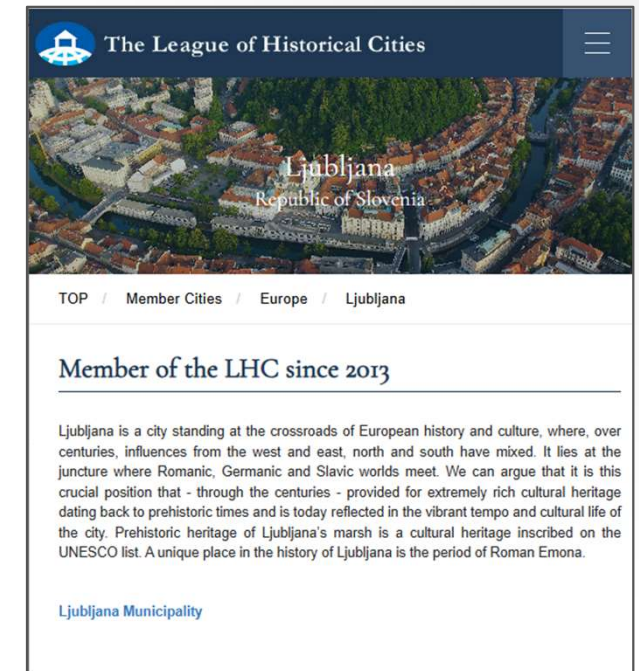
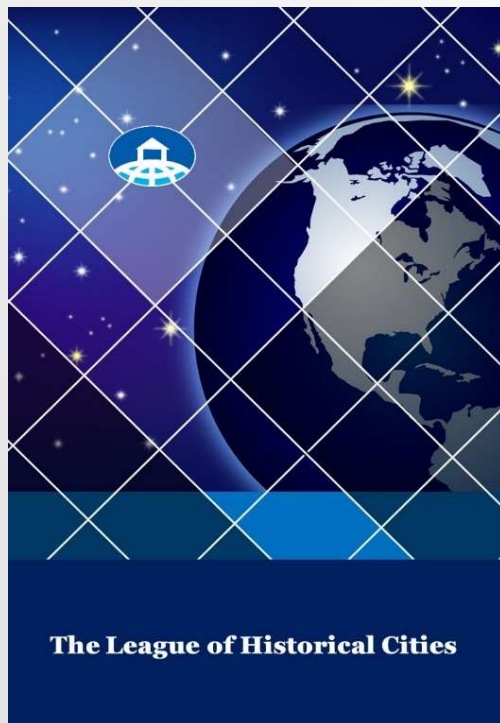
姫路市プレゼンテーションの様子



イスファハン市プレゼンテーションの様子

(2) 公式ウェブサイトを通した情報共有

2019年に公式ウェブサイト（英語）の改修を行い、2020年1月に新サイトを公開。各会員都市の紹介ページの他、新着ニュース、会議情報、事業報告等を随時掲載。



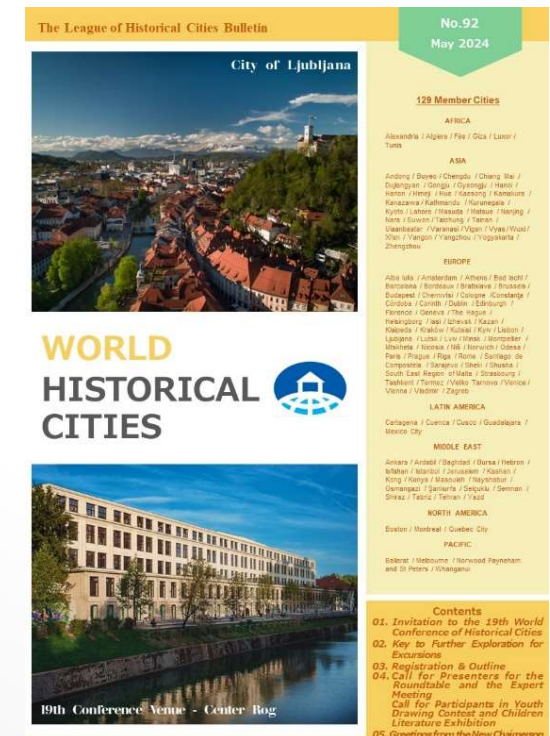
- 会員都市情報
- 最新ニュース
- 世界歴史都市会議情報
- 刊行物（リーフレット、機関紙）
- 加盟申請フォーム

(3) 連盟機関紙の発行（年2～3回）

会員都市間の情報交換のため、歴史的景観や文化施策に関する各都市の取組事例や、会議情報、新規加盟都市の紹介等の記事を掲載した英文機関紙を発行。**京都市からも京町家再生プロジェクトや観光振興に関する記事を掲載してきた。**

<国内会員都市の掲載記事>

- 鎌倉市：市制施行80年周年の取組としてバレイ発祥の歴史や万葉集ゆかりの地を紹介
- 金沢市：景観、職人育成、国立工芸館の誘致など「芸術文化ゾーン」の価値向上
- 姫路市：日本初の世界遺産である姫路城の歴史と戦後のまちの復興
- 松江市：文化財や地質遺産と豊かな自然との調和
- 益田市：歴史文化を活かしたまちづくり



(4) 京都市における広報活動

●「京の七夕」連盟行灯（2014～2019）

毎年8月に京都各所で実施される「京の七夕」では、世界歴史都市連盟市長による**平和を祈るメッセージ行灯**を二条城に設置し、訪れる市民や観光客に披露。

※2020年以降、イベント縮小で行灯の設置なし



●世界歴史都市絵本展（2017～2024）

加盟都市の国の言語・文化を絵本等を通して紹介する展示を**京都市国際交流会館**において年3～4回開催。**市内の小中学生や修学旅行生も、学習活動の一環として訪問。**2022年にはウクライナの特設展示コーナーも併せて設置。

